

豊岡市は東日本大震災被災地支援を続けます 南三陸町長が復興支援のお礼に来訪

1月20日、宮城県本吉郡南三陸町の佐藤 仁町長が来訪しました。

佐藤町長は、中貝市長に東日本震災に対する復興支援のお礼を述べた後、「今年が復興の正念場であり、町民にしっかりと復興の姿が見えるよう努力したい。そのためにも豊岡市から、継続した職員派遣をお願いしたい」と、継続支援を要請しました。

中貝市長は「復興の形が見えてくると、また頑張ろうという気持ちになる。南三陸町の復興のため、継続して職員を派遣する」と伝えました。

本市は、平成24年10月から、南三陸町の上下水道事業所へ職員を派遣しています。今年3月末で派遣期間満了ですが、さらに4月から1年間、新たな職員を派遣します。

【南三陸町の状況等】
○南三陸町は、東日本震災で、800人を超える死者、

行方不明者を出し、中心部が壊滅的な被害を受けた。



▲佐藤 仁町長(右)と中貝市長が談話

○平成23年12月策定の震災復興計画に基づき、全国の自治体から約1000人の職員派遣を受けながら、復興事業を推進している。

【豊岡市のその他の支援】
○緊急消防援助隊(消防職員延べ112人)、関西広域連合要請(行政職員延べ478人)職員派遣

○市民等からの義援金・支援金・支援物資(バッグ等)
○ボランティアバス運行
○被災地応援・支援ツアー
○ボランティア活動補助事業

地域ぐるみで子どもを育てよう まちぐるみ学校支援シンポジウム開催

1月25日、豊岡市民プラザで、第6回「まちぐるみ学校支援シンポジウム」を開催しました。

このシンポジウムの目的は、市立39小・中学校が、地域の方々から受けているさまざまな学校支援を広く知っていただき、「学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで子どもを育てる」ことです。

当日は、中筋・港東・城崎・中竹野・日高・弘道小学校と豊岡南・城崎中学校が発表し



▲弘道小学校の発表の様子

ました。約280人が来場し、児童や生徒と地域の方々との多彩な活動事例発表に、熱心に耳を傾けていました。

「JFA」のプロジェクトの協定を受けて 日本サッカーを応援する自治体連盟へ加盟

本市は、日本サッカー協会(JFA)と、ここらのプロジェクトの協定を結んでいます。

これにより、Jリーガーなど日本を代表するスポーツ選手が、「夢先生」として市内小学校の教壇に立ち、「フェアプレー精神」や「夢を持つことの素晴らしさ」、「それに向かって努力することの大切さ」などを子どもに伝えていきます。その縁から、「日本サッカー

」を応援する自治体連盟」に、本市も加盟しました。(全国275自治体が加盟)

同連盟では、FIFAワールドカップブラジル大会に向けた気運の醸成のため、JFAの「夢を力に2014」プロジェクト(※)に協力しています。夢を力に挑戦し続ける選手らの精神を多くの人と共有し、日本中を希望や勇気、活気あふれるものにする活動

主な市政の動き

- 14日・韓国慶州市訪問団来訪(16日)
- 17日・「1・17」メモリアルデー防災教育(23日)
- 16日・豊岡ライフスタイルデザイン事業報告会
- 17日・市民安全確保推進会議
- 20日・南三陸町長来訪
- 22日・森本中学校統合検討委員会から報告書提出
- 22日・カネカ堀ソーラー発電所竣工式
- 25日・新田小学校児童豊岡市環境経済認定事業企業見学
- 25日・市長と語る「女性いきいきトーク(2月6・9・17・18日)
- 27日・まちぐるみ学校支援シンポジウム
- 27日・宇宙教育出前授業(28日)
- 30日・没後30年「植村直己」小冊子発行
- 1日・Uターン就職授業
- 3日・健康づくり講演会
- 10日・豊岡市冬の美術館(21日)
- 第3次豊岡市行政改革大綱委員会案答申

史上最年少の45歳4カ月で候補者となり、その1年目に決定！

野茂英雄さんが野球殿堂入り

1月17日、本市に拠点を置く社会人野球チーム「NOMOベースボールクラブ」の代表理事を務める野茂英雄さんが、野球殿堂入りし、市内のホテルで記者会見が開かれました。

翌日、県立但馬ドーム（日高町名色）で開催される少年野球大会「NOMO CUP」のために来訪していた野茂さんは「野球をやりたいようにやってこれたのは、家族を含

めた周りのサポートのおかげです。それが殿堂入りという結果になり、皆さんに感謝しています」と語りました。

また、ベースボールクラブの活動に関しては、「豊岡の方々には、すごく良くしていただき、地元の方々のおかげもあってチームもうまく1年目を終えることができました」と感謝を述べました。

中貝市長は「野茂英雄さんの野球殿堂入りは大変うれし

く、興奮しています。プロ野球を志す若者に、また一つ大きな夢を与えていただきました。多大な功績に心から敬意を表し、ますますの活躍をお祈りします」と喜びました。



▲野茂英雄さんが決まり、野球殿堂入りする記者会見の様子

市と学校の取組みがマッチング！ 地元就職の授業を近畿大学附属豊岡高等学校で実施

2月1日、地元就職に関する授業を、近畿大学附属豊岡高等学校で行いました。本市は、大学生の地元就職促進に取り組んでおり、卒業生の地元就職を推進する同校から打診されて実施したものです。

授業では、同校OBで地元企業に勤務する佐々木一彦さんが講師となり、大学に進学する生徒と保護者70人に、就職活動での経験談や、地元就

職を選択した経緯を語りました。さらに、地元の中小企業への就職は、会社の運営に参画しやすい、地域に密着した仕事が多いなどの利点があることも伝えました。

また、市職員が、地元就職のガイダンスや、人材を求めている市内企業の紹介などを行いました。

生徒は「中小企業と大企業の違いを初めて知った。就職

活動に役立てたい」「地域での仕事に、やりがいを感じた」などの感想を述べていました。



▲佐々木一彦さんの授業の様子

中貝市長の徒然日記 ⑦⑥

恋するフォーチュンクッキー

それ、何？という方もおられると思います。人気グループAKB48の歌の題名です。歌に振りつけられたダンスを会社や役所、地域の人々などが少しずつ踊り継いでいき、その様子をネット上で流す、という「恋チュン動画」が全国で大はやりです。

1月下旬に公開された「山陰海岸ジオパーク」版では、3市3町3府県の職員を始め、鳥取環境大学の学生、県立大学の教授、豊岡高等学校の生徒、玄武洞ガイド、城崎温泉に

実に多彩な人々が踊り継いでいます。NOMOベースボールクラブの選手や空手少年らも参加しています。オンセンジャーは、吹雪の玄武洞で子どもたちと踊っています。

圧巻は、成人式会場の約800人の新成人、教育委員長、教育長、市長らの場面です。収録では、会場が大いに盛り上がりました。商工会版は、2月中旬段階で4万回以上見られています。「あー、私も出たかった」という声をあちこちで聞きました。

但馬牧場公園の牛など、山陰海岸ジオパークに関係するさまざまな人々が登場しています。海中で踊るダイバーもいます。

豊岡市商工会青年部バードジョンはさらに凝っています。商工会正副会長、事務局はもちろん、そば屋、喫茶店、花屋、スーパ―、美容院、ホテル、民宿、漁船、精肉店、米穀店、学校給食センター等々、

私たちのまちがさまざまな人々によって支えられていることを、一目瞭然、教えてくれます。私たちには仲間がいる、そんな実感を持たせてくれます。そして自分のまちへの愛着がしみじみと湧いてきます。なんて素敵なまちなんだ。

ジオパークバードジョンでは、事務局職員が「踊ってつなぐぞー」と叫んでいます。そのとおりです。が、つながったのは踊りだけではありません。人々の心もまたつながったのだと思います。